教育相談

Y・G性格検査からみた不登校生徒に関する一考察

教育相談部　**野村　忠之**

1. はじめに

教育相談のために来所する生徒の訴える問題行動の中で，不登校を訴える生徒が増加している。

不登校状態にいたる背景としては，本人の性格家庭や学校の環境など多くの要因があげられる。ここでは，その一つである本人の性格をY・G性格検査の性格類型を通してとらえ，性格と不登校の関係について考察してみたい。

2. Y・G性格検査について

この性格検査は，アメリカの心理学者J.P ギルフォードが考案した質問紙法の一つである。性格特性は次の12の因子で構成され，各因子の尺度を標準点とパーセンタイルで表現する。

- D ── 抑うつ性（陰気，悲観的気分）
- C ── 回帰性傾向（気分の変化が大きい）
- I ── 劣等感（不適応感が強い）
- N ── 神経質（心配性）
- O ── 客観性（空想的，主観的）
- Co ── 協調性（不満）
- Ag ── 攻撃的（無愛想）
- G ── 一般的活動性
- R ── のんきさ（気がるさ，衝動的）
- T ── 思考的（内向，外向）
- A ── 支配性（指導性，リーダーシップ）
- S ── 社会的（内向，外向）

性格類型は系統値で判定するが，その比率により典型，準型（A′.B′など），亜型（A″.AB.ACなど）の３類型に区分される。

典型性格は次のように示される。

典型	因子		
	情緒安定性 O,C,I,N	社会適応性 O,Co,Ag	向性 G,R,T,A,S
A型(平均型)	平均	平均	平均
B型(行動型)	不安定	不適応	外向(積極)
C型(平穏型)	安定	適応	内向(消極)
D型(管理型)	安定	適応	外向(積極)
E型(逃避型)	不安定	不適応	内向(消極)

3. 不登校を訴えて来所した中学生50名のY・G性格検査の特徴

(1) 性格類型

（　）内数　女子

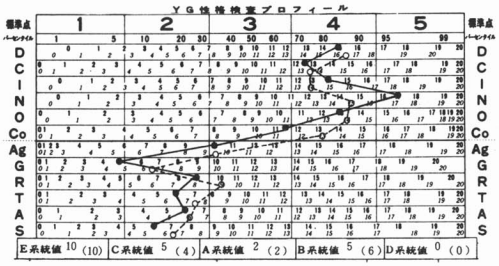
	判定	人数	小計	出現率(%)
A	A	1 (1)	4 (3)	8
	A′	2 (1)		
	A″	1 (1)		
B	B	0	4 (3)	8
	B′	2 (1)		
	AB	2 (2)		
C	C	5 (1)	12 (6)	24
	C′	4 (3)		
	AC	3 (2)		
D	D	2 (1)	4 (1)	8
	D′	1		
	AD	1		
E	E	13 (5)	26 (11)	52
	E′	11 (5)		
	AE	2 (1)		
計		50 (24)	50 (24)	100

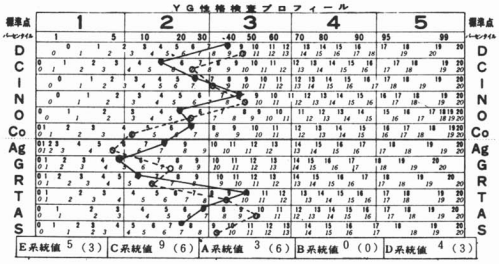
出現率はE類型が52%，ついでC類型が24%，A，B，D類型が各々８%と同率を示す。ここでは，出現率の多いE，C類型を例にその特性を考察して見ることにする。

(2) 事例から見た性格特性

E，C両類型を該当者の各因子の得点の平均値をとってプロフィールで示してみると

① E類型── 不安定，不適応，消極型



D，C，I，N，O,Coが右寄りになり，情緒不安定・社会的適応性に欠けており，一方，Ag，G，R，T，Sは左寄りで，非活動的，内向的（消極的）な性格を示している。（－男子　‥‥女子）

② C類型── 安定，適応，消極型